

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	メリーポピンズ東神奈川ルーム	種別：	認可保育園	
代表者氏名：	施設長 松下 杏	定員（利用人数）：	35（32）名	
所在地：	221-0044 神奈川県横浜市神奈川区東神奈川1-14-35 サンハロー東神奈川駅前1F			
TEL：	045-316-6001	ホームページ：	https://www.doronko.jp/	
【施設・事業所の概要】				
開設年月日	2014年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：	株式会社ゴーエスト			
職員数	常勤職員：	7名	非常勤職員：	5名
専門職員	保育士	10名	栄養士	0名
	看護師	0名	調理員	1名
	用務員	0名		
施設・設備の概要	居室数	保育室2室、調理室、事務室・医務室、乳児トイレ・幼児トイレ	設備等	園庭（ウッドデッキ）

③理念・基本方針

- ・『にんげん力』を身につける為に、遊びや野外体験の中で経験を重ね、自分で考え行動する力を育む。
- ・子どもが自発的、意欲的に関わることのできる環境を構成し、主体的な活動や子ども同士の関わり合いを尊重する。
- ・自分のしたいことを満足するまでやり、思いを表出し、それを受け止めてもらう事のできる環境を構成し、一人ひとりが安心して生活できる場となる。

④施設・事業所の特徴的な取組

一人ひとりの子どもが安心して、自分の好きな場所で自分のしたいことを選び、満足するまで取り組める環境構成を心がけています。例えば、子どもたちの興味に合わせて遊びや活動のコーナーを変更したり、子どもが続けたい遊びを保持できる場所や方法を提供したりしています。また、異年齢や障がいのあるなしに関係なく、全ての子どもがいっしょに過ごせるよう配慮しています。できない事ではなく、できる事を探すよう促し、時には保育士が仲立ちになることで、できない事を手伝ったり手本となったりするなど、子どもの思いやりの気持ちをはぐくんでいます。そのほか、「強い体を育てる」として、年間を通しての裸足保育、毎日の雑巾がけやリズム体操、3～5歳児の毎週30分の担任による体操指導などを実施しています。子どもの様子や状況を把握して、何の力を身に付けるべきかを検討し、転びやすい場合は坂道や階段を使う機会を増やすなどを実施しています。そして毎日午前と午後に散歩へ出かけるほか、例年は園バスを使った遠足を行っていましたが、新型コロナウイルスへの対応として現在は徒歩遠足に切り替えています。

小規模園ならではの環境を生かした保育を、子どもも大人も、みんなで楽しんで行えるよう取り組んでいます。また、全ての子どもたちに目が届くことで安全が確保できるとともに、見えているからこそその死角がないよう細心の注意を払った保育に努めています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年6月28日（契約日）～ 2022年3月1日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（ 2015 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆自分で考え、行動する思考をはぐくむためのさまざまな取組があります

「にんげん力」を育てることを法人の子育て理念として掲げ、「にんげん力」を身に付けるために必要な「自分で考え、行動する思考」をはぐくむとし、そのためのさまざまな取組を園で実施しています。キノコ栽培から子どもたちの関心がキノコに向いた時には、さまざまなキノコについて知ることができる掲示をしたり、ドングリを転がす「ピタゴラスイッチ」を作った時には子どもたちのアイディアを生かして改良を重ねたりしました。また、誕生月ごとの園児の写真掲示を見て、「先生たちのがない」と気づいた子どもたちが保育士の絵を描いてくれたので、いっしょに貼るなど、園では子どもの「やりたい」という気持ちを大切にしています。

◆保育の質を向上するための園内研修に全職員で取り組んでいます

法人作成の「理想の仕事の仕方、サービス、接客」を示した「コンピテンシー」という冊子があり、今の自分に足りないことを抽出するためのチェック項目が7つのテーマごとに10～20項目用意されています。今年度の前半はこの「コンピテンシー」の2つのテーマを重点的に取り上げ、全職員で自己点検を繰り返し、その結果について分析、話し合いを毎月行っています。同じ項目で点検を繰り返すことで、どうすれば理想の姿に近づくのか職員それぞれが考えるようになり、「失敗のない日は1日何もしなかった日」と全職員で共有することで常に行動と振り返りを行い、より質の高い保育を一人ひとりが実践できるよう取り組んでいます。

◇改善を求められる点

◆当園としての伝達事項や取組についての明示をよりいっそう期待します

法人編纂のマニュアルが完備されており、園内での共有も、繰り返し読み合わせやチェックリストによる確認が実施され、マニュアルに基づいた実践が行われています。施設長は、全職員が当事者意識をもつことで自分で考え行動できると考えており、実際にそれぞれの職員が責任感をもって業務にあたっています。ただ、当園としての体制や取組などについて、例えば、主となる担当者などを具体的に明文化することで、さらに迅速な対応や行動に結びつくことも考えられます。当園としての明文化の必要性について、今後、職員間で検討されることを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

コロナ禍で制限が続く中ではあるが、できる事を探し、法人理念である『にんげん力』を身につける為に、必要な遊びや野外体験を実践し、自分で考えたり行動したりする力を育めるよう、定期的に保育や計画の振り返りを行ってきた。また日々の活動に子どもの興味関心が反映されたものとなるよう、子どもが自分の意思で自発的、意欲的に関わり、遊びや子ども同士の関係を築いていけるよう、環境構成を行ってきた。

又、保育者主体とならないよう、子どもの思いを尊重し生活と遊びができる環境を心掛けている。子どもが満足するまでやりきる環境構成と、それを受け止め、共感し応答的な対応を心掛け、一人ひとりの子どもにとって保育園が安心できる場となるよう努めてきており、今後も大切にしていきたいと考えている。

子どもたちの成長や利用者アンケート結果からはその成果が感じられ、法人としての保育はもちろん、自園で進めてきた保育に自信を持つことにも繋がった。園として大切にしている、子ども主体の保育を継続する為に、子どもの気持ちに寄り添いながらやりたいことを満足するまでやりきる環境を引き続き作り続けていく。

園運営に関しては、保育の見える化や丁寧な情報共有を進め、保護者にとっても満足できる開かれた保育園を引き続き目指していく。又、会議体や係仕事は細分化し、園として必要な記録を残していくなど改善策を常に考え、園としての仕組み作りを着実に進めていく。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり